

地域おこし協力隊離島振興担当の正林泰誠です。昨年の4月から答志島をフィールドとして活動し、早いもので1年という任期を迎えました。

活動内容は、だれでもいつでもフラッと訪れることのできる居場所かつ海洋教育の拠点(現在の「ねやこや」の整備です。場所は、約10年前に閉店した答志島の土産物屋さんを借りることができました。

初めて見た時は、シャッターで閉ざされ中はゴミだらけ



改修前の空き店舗



でもとも入りにくい場所でしたが、少しずつゴミを出し、使えるものは再利用しながら、ゆつくりと島に合った空間を作りあげていきました。

また、活動の中で私は『共創』と『偶発』のふたつのキーワードを意識して取り組んできました。

共創とは、地域全体で共につくるといことです。本来ですと、地域おこし協力隊として私が責任を持って隅から隅まで空間を作り上げないといけないのかもしれませんが、しかし、改修の規模的に1人で行うのはなかなか難しいところがあります。そこで、島民のみなさんに活動の目的を何度も説明し、協力をお願いしました。すると、最初はみなさん覗いていくだけでしたが、子どもたちが手伝いに来てくれるようになり、次第に島民のみなさんが作業しにきてくれるようになりました。そして、どんな空間にしたいかをみんなで話し合いながら



しょうばやし たいせい 正林 泰誠 隊員



作り上げることができました。人手や知恵だけでなく、材料や道具など再利用できるものもいいただきました。そうやってすぐに完成させるのではなく、少しずつ進めていくうちに、地域のみなさんを巻き込み、時間をかけて更新されるデザインが生まれました。

この共創の更新は任期を終えたあとも続けていきます。偶発とは、目的のない偶発的な出会いを大事にするということです。地域おこし協力隊としての活動は想定外のこの連続でした。わかりやすい拠点をつくることで島のみなさんと関わることは想定していましたが、ここまで多く

の学生、研究者、企業のかた、旅人、観光客などの島外のかたと出会うとは思いませんでした。例えば観光客のかたが初めてお会いする地元の漁師さんと島について話していたり、島の子どもたちが島の大学生と遊んでいたりと、そんな面白い光景が日常的に「ねやこや」で生まれました。年齢や所属など異なる人が出会い交流することで、新たな出会いが生まれます。その結果として「ねやこや」を訪れた人(主に学生や研究者)を中心に「ねやこやコミュニティ」が発足しました。たまたまフラッと来て時間を共有することで、お互いに島のこ

とを好きになつてもらえる時間が今後増えることを期待しています。

改修作業だけでなく、島の文化や生業に触れる機会も多くあり、濃密な時間を過ごすことができました。この1年間の活動をサポートしていただいたみなさん、本当にありがとうございました。令和5年3月末で地域おこし協力隊を退任し、東京大学大学院に復学しますが、生活の拠点は引き続き答志島に置く予定です。もちろん「ねやこや」の運営や整備にも携わらせていただきます。今後とも正林をよろしく願います。